



高知県における新規需要米の収量性

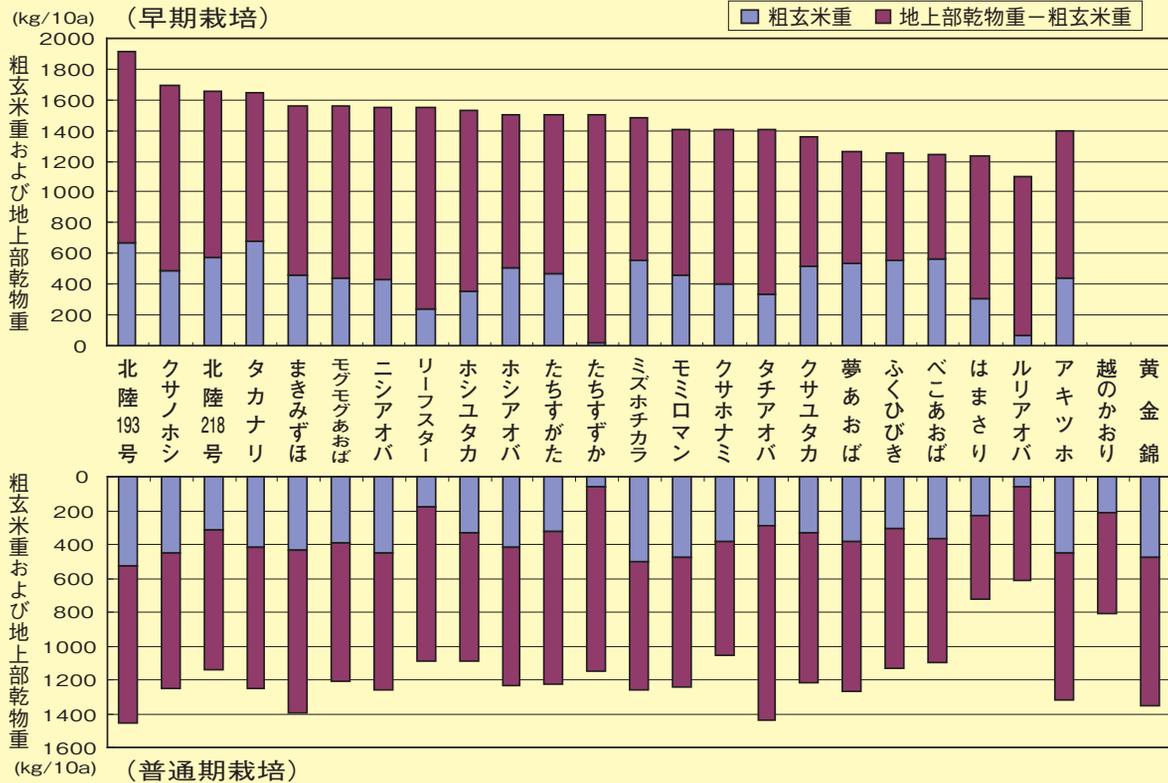


図1 高知県における新規需要米専用品種の収量 (2010)

注) 越のかおり、黄金錦は普通期のみ

新規需要米として WCS (ホールクロップサイレージ) や子実を利用する飼料用米、米粉などの取り組みが全国各地で進められています。しかし、高知県での収量特性などは調査されていませんでした。そこで、新規需要米専用品種の収量性を調べました (図1)。

①地上部乾物重では、ほとんどの品種で早期栽培が普通期栽培よりも多収となりました。

②作期に関わらず‘北陸193号’は地上部乾物重および粗玄米重が最も高く、用途に関わらず有望でした。また、同様に‘ミズホチカラ’は粗玄米重が高く、子実利用品種として有望と考えられました。

③早期栽培で地上部乾物重および粗玄米重が高い品種は‘タカナリ’‘北陸218号’、地上部乾物重が高い品種は‘クサノホシ’、粗玄米重が高い品種は‘べこあおば’‘ふく



ひびき’でそれぞれの用途で有望と考えられました。

④普通期栽培で地上部乾物重が高い品種は‘タチアオバ’‘まきみずほ’、粗玄米重が高い品種は‘モミロマン’でした。

今後は、穂発芽性や脱粒性、耐病性、WCSとしての品質評価、米粉としての製パン適性などについても、検討を進めていきたいと考えています。

(水田作物担当 溝渕正晃 088-863-4916)